

小地域福祉活動 事例集

Vol.10

～キラッと輝く！笑顔あふれる！小地域福祉活動～



県内
若手職員が
取材しました！！

小地域福祉活動事例集編集委員会

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
滋賀県市町社会福祉協議会会長会

平成 28 年 3 月発行

はじめに

滋賀県社会福祉協議会(以下、「本会」といいます。)では、小地域福祉活動を推進するために、平成16(2004)年度に「福祉委員、福祉推進員のための小地域福祉活動ハンドブック」を発行し、活動の考え方や進め方とともに県内の事例を紹介しました。以降、平成17(2005)年度から「小地域福祉活動事例集」を毎年発行し、今年度は節目となる10号(Vol.10)を迎えることになりました。

併せて、平成21(2009)年11月には、大津市社会福祉協議会をはじめ各市町社会福祉協議会、関係団体とともに「第3回全国校区・小地域福祉活動サミットin大津」を開催し、全国から参加した約2000人の実践者や支援者が交流を深めました。これをきっかけとして、県内の住民主体の地域福祉活動の裾野をさらに広げるべく、翌年の平成22(2010)年度から平成26(2014)年度までの5年間にわたり「地域福祉活動フォーラムinしが」を開催してきました。

一方、この10年間、地域の状況は大きく変化しました。とりわけ、社会的孤立・生活困窮問題と子どもの貧困問題のひろがりや、政策的な対策のみならず、暮らしの場である地域における人と人との関係性、つながりのあり方が、より強く問われています。

同時に、少子・高齢化の波は滋賀県にも押し寄せ、平成26(2014)年10月1日の人口推計によると、すでに人口減少局面に入ったとされています。「限界集落」という言葉が登場したように、滋賀県内でも人口の高齢化により自治会等の運営の維持が困難になっているところも出てきました。

このような状況のなか、今後、暮らしの基盤となる地域、とりわけ、暮らしに身近な地域である自治会等をエリアとする「小地域」における、住民主体の小地域福祉活動の持つ意味と暮らしにおける役割はますます大きくなっています。これは、同時に、その活動を支援する社会福祉協議会の役割が問われているものであるといえます。

そこで、第10号となる今回の「小地域福祉活動事例集」は、京都ノートルダム女子大学の酒井久美子准教授を助言者にお迎えして、これからの市町社会福祉協議会を担う若手の職員が、学習を重ねながら、6つの地域の小地域福祉活動を紹介することとしました。各地域での活動のきっかけや経過、活動の具体的な内容と地域への想いなどを紹介しています。これらの事例を通して、小地域福祉活動を感じ取っていただき、それぞれの地域における取り組みへの参考にいただければ幸いです。

目次

はじめに	1
小地域福祉活動について	2
事例1 グリーンボランティアグループ(大津市)	5
～住民同士の見守りが、生活の安心感に～	
事例2 余呉地区 元気かい「ちょこっとサービス」(長浜市)	7
～余呉地区全体に自然な助け合いが広がるように～	
事例3 葉山東福祉の会(栗東市)	9
～地域が“家族”になることを目指して～地域の中で支え合う給食サービス～	
事例4 三本柳区防災福祉会(甲賀市)	11
～平常時にも活かせる防災組織づくりを～	
事例5 菩提寺まちづくり協議会(湖南市)	13
～認知症の人と家族が安心して暮らせるまちをめざして～	
事例6 高番区絆千福の会(米原市)	15
～みんなでつくる、楽しい居場所～	
小地域福祉活動事例集編集委員の声	17
おわりに	18
資料:小地域福祉活動事例集 掲載事例一覧	19



小地域福祉活動とは

小地域福祉活動とは、住民の日常的な暮らしにおいて、身近でなじみのある自治会や小学校区などの地域を範囲として、住民が主体となって行う組織的な福祉活動です。

その地域で生活を送るうえで、住民にとって共通の課題となっていることや、孤立死といった問題が起こることを防ぐために、住民が力を合わせて取り組むための組織をつくり、住民同士のつながりづくりや、日常的な助け合いの活動、活動の担い手づくりなどを地域の状況に応じて展開します。

しかし、すべて住民だけで行う、あるいは行わなければならないものではありません。住民の力だけでは解決が困難な問題は関係機関や専門職と共に考え、問題の解決をめざします。

小地域福祉活動の内容

小地域福祉活動は、地域で起こっている、あるいは起こりそうな「問題」について、住民自身が考えたり調べたりして、具体的に取り組んでいく「課題」にしていくことから始まります。

そして、その「課題」に対してどのように取り組むのかを話し合い、合意形成をして課題に応じた具体的な活動が開始されます。したがって、活動は多様なプログラムが生まれますが、現在県内で実施されている活動は、「つながりづくり(孤立防止)」、「見守り(ニーズの発見)」、「生活支援(ゴミ出し、買い物、外出支援等のちょっとした生活の手助け)」の3つに大きく分類することができます。

また、これらの活動は、1つの活動で終わる(完結する)ものではなく、活動を通して生まれて来た課題に応じて、他の活動にも展開していきます。

こうした小地域福祉活動の内容を図で表すと、図1のようになります。

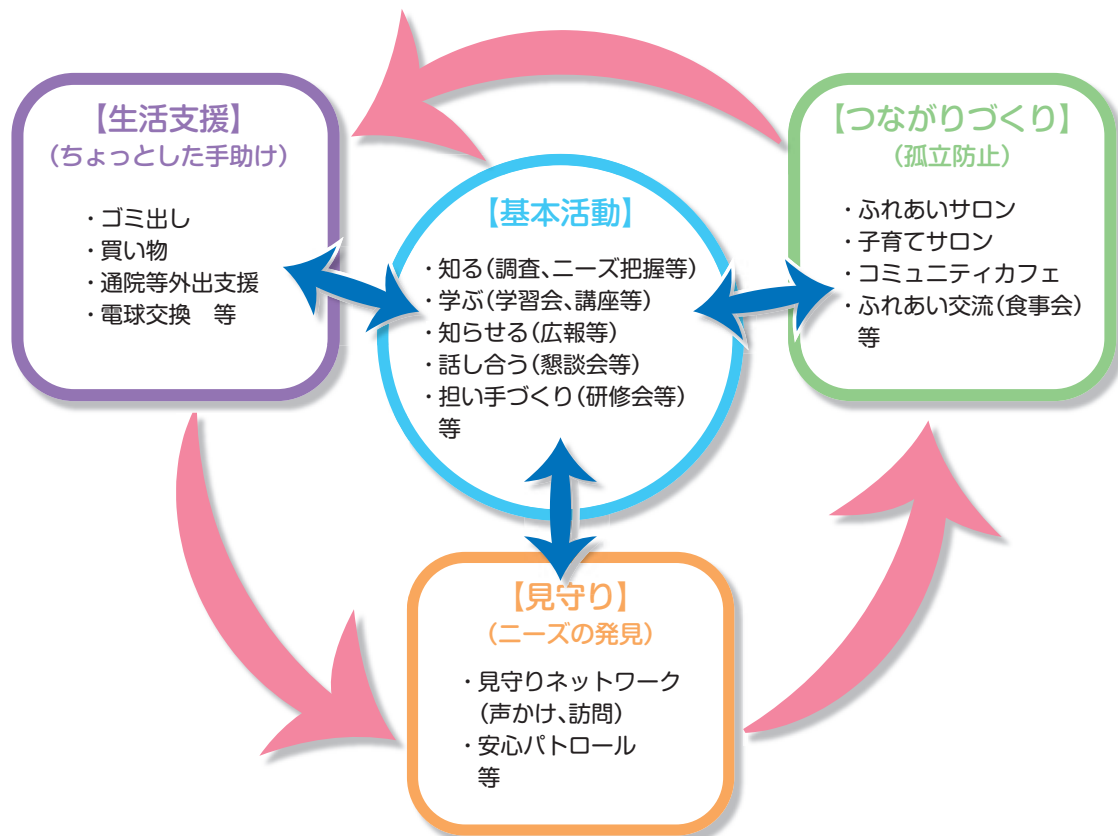


図1 小地域福祉活動の内容
(「小地域福祉活動の発展への推進方策」(奈良県社会福祉協議会、平成24年)3ページの図を一部援用)

小地域福祉活動の推進組織と活動

小地域福祉活動に取り組む組織・グループは、地域の暮らしのまとまりの単位と規模によって図2のように組織され、それぞれの活動がつながりながら展開されています。

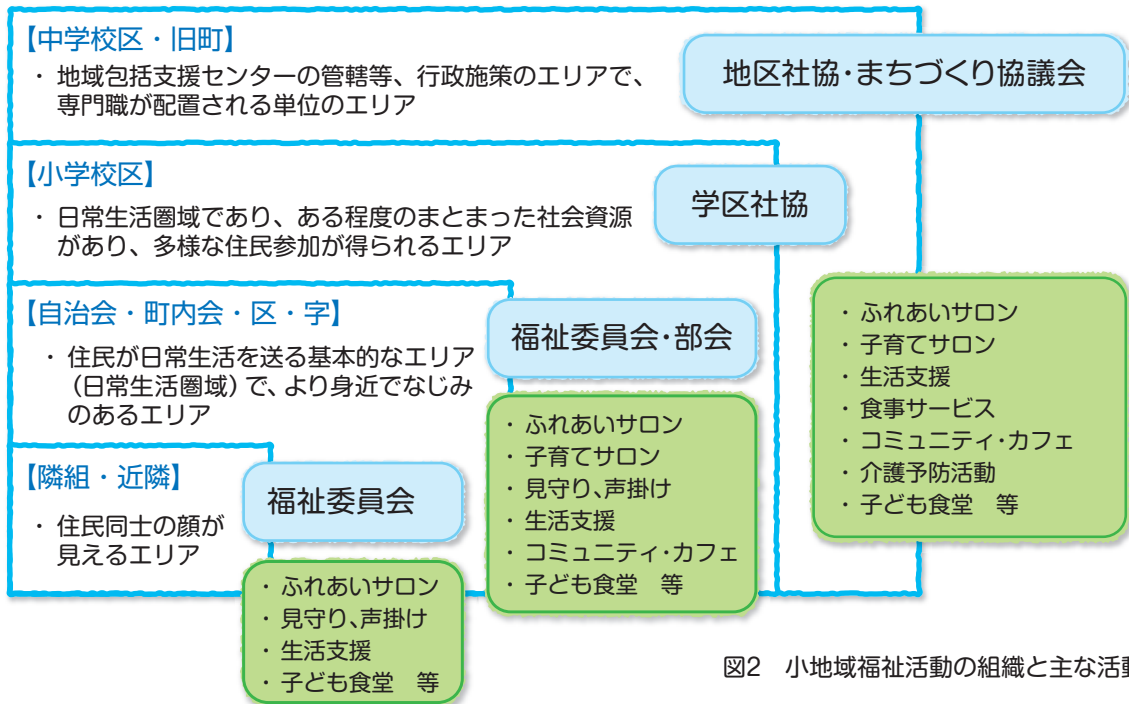


図2 小地域福祉活動の組織と主な活動

【滋賀県内の小地域福祉活動の実施状況】

滋賀県内では、エリアの区分に応じて、表1のような活動が実施されています。

自治会・町内会・字・区単位での取り組みで最も多いのは「ふれあいサロン」(16市町)で次いで「安否確認・見守り」・「住民支え合いマップ・防災マップづくり」(15市町)となっています。

学区・地区単位での取り組みでは「福祉懇談会」・「食事サービス(配食)」・「広報活動」がいずれも10市町で最も多く、次いで「福祉学習会・講座」(9市町)となっています。

表1 滋賀県内19市町での小地域福祉活動の実施状況

	学区・地区	自治会・町内会・区・字	その他
①福祉懇談会	10市町	13市町	0市町
②福祉学習会・講座	9市町	13市町	1市町
③調査活動	5市町	9市町	3市町
④世代間交流	8市町	12市町	1市町
⑤安否確認・見守り	7市町	15市町	2市町
⑥住民支え合いマップ・防災マップづくり	4市町	15市町	0市町
⑦当事者の仲間づくり	5市町	4市町	5市町
⑧食事サービス(配食)	10市町	5市町	3市町
⑨食事サービス(会食)	5市町	5市町	1市町
⑩広報活動	10市町	12市町	3市町
⑪ふれあいサロン	9市町	16市町	1市町
⑫支え合い・生活支援活動	3市町	5市町	0市町
⑬その他	3市町	1市町	0市町

【ふれあいサロンの実施状況】

本会では、平成9年度に「ふれあい・いきいきサロンの手引き」を刊行し、「ふれあいサロン」づくりを推進してきました。以降、主に自治会・町内会・区・字の日常生活圏域における取り組みとして広がり、平成26年度末時点で、1,739箇所、20,288回のサロンが開催され、346,558人が参加しています。

【注目される「子ども食堂」の取り組み】

平成26年9月に開設された「滋賀の縁創造実践センター」では「遊べる・学べる淡海子ども食堂」推進事業を展開しています。

この取り組みは子どもの貧困問題に代表される、子どもの健やかな育ちを阻害する状況がクローズアップされるなか、地域ぐるみで子どもを大事にする垣根のない居場所として、ご飯を食べたり、宿題をしたり、本を読んだり、遊んだり等、子どもが安心して誰かとともに過ごすことができる場所を地域の中に作ろうとするもので、全国各地に広がっています。

「ご飯」を通じてみんながつながり、地域がつながり、寂しさやしんどさを抱える子どもを地域で「見守り、育てていく場」としての「子ども食堂」は、これからの住民主体の小地域福祉活動として取り組まれていくことが期待されます。



小地域福祉活動は地域の宝

今回、掲載している事例からも、小地域福祉活動は、住民主体の活動ならではの、地域を彩り豊かにする手作りの活動であり、地域の宝ともいえる活動といえます。

ぜひ、社会福祉協議会とともに小地域福祉活動を進めていきましょう。

■滋賀県内の市町社会福祉協議会一覧

市町社会福祉協議会名	〒	住 所	電話番号
大津市社会福祉協議会	520-8530	大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津5階	077-525-9316
彦根市社会福祉協議会	522-0041	彦根市平田町670 市福祉保健センター別館	0749-22-2821
長浜市社会福祉協議会	526-0037	長浜市湖北町速水2745 長浜市役所湖北支所3階	0749-78-8294
近江八幡市社会福祉協議会	523-0082	近江八幡市土田町1313 市総合福祉センター内	0748-31-2677
草津市社会福祉協議会	525-0041	草津市青地町1086	077-562-0084
守山市社会福祉協議会	524-0013	守山市下之郷3-2-5 福祉保健センター内	077-583-2923
栗東市社会福祉協議会	520-3015	栗東市安養寺190 総合福祉保健センター内	077-554-6105
野洲市社会福祉協議会	520-2423	野洲市西河原2400 野洲市北部合同庁舎2階	077-589-4683
湖南市社会福祉協議会	520-3234	湖南市中央1-1 湖南市社会福祉センター内	0748-72-4102
甲賀市社会福祉協議会	528-0005	甲賀市水口町水口5609 水口社会福祉センター内	0748-62-8085
高島市社会福祉協議会	520-1121	高島市勝野215 高島市役所高島支所2階	0740-36-8220
米原市社会福祉協議会	521-0023	米原市三吉570 地域福祉センター内	0749-54-3105
東近江市社会福祉協議会	527-0016	東近江市今崎町21-1 東近江市福祉センター内	0748-24-2940
日野町社会福祉協議会	529-1602	日野町河原1-1 勤労福祉会館内	0748-52-1219
竜王町社会福祉協議会	520-2552	竜王町小口4-1 福祉ステーション内	0748-58-1475
愛荘町社会福祉協議会	529-1313	愛荘町市731 福祉総合センター愛の郷内	0749-42-7170
豊郷町社会福祉協議会	529-1161	豊郷町四十九院1252 豊栄のさと内	0749-35-8060
甲良町社会福祉協議会	522-0244	甲良町在士357-1 保健福祉センター 2階	0749-38-4667
多賀町社会福祉協議会	522-0341	多賀町多賀221-1 総合福祉保健センター内	0749-48-8127

グリーンボランティアグループ（大津市）

～住民同士の見守りが、生活の安心感に～



地域の概要

大津市の南郷グリーンハイツ自治会は、約40年前に造成された団地で、世帯数は650世帯、人口は約1,800人です。団地の入り口には大きな花壇があり、花があるまちづくりにも力を入れています。

南郷グリーンハイツ自治会は、南郷学区の中でも高齢化率が高く、平成27年4月時点で43.4%となっています。

グリーンボランティアグループの設立と活動

南郷グリーンハイツが造成されて25年も経つと、子どもも独立し、高齢者だけで生活する世帯が増えてきました。

前代表の田畑さんは、阪神・淡路大震災がおきたことにより、“安心して暮らすためには地域が助け合う土壌づくりが必要だ”と感じ、平成13年にグリーンボランティアグループ（以下、GVG）を設立しました。3年前、伊藤さんに代表をバトンタッチし、創立の精神を引き継ぎ、高齢化が進む地域に即した対応を模索しながら活動しています。

GVGは136名の賛助会員がいますが、そのうち22名が実際に活動を行う活動会員で、10名が運営にあたる世話役という構成です。活動を依頼したい人も、賛助会員になります。

活動は、「喫茶オアシス」、「お手伝い活動」、「声かけ・見守り訪問」の3つの内容となっています。

「喫茶オアシス」は月1回、自治会館で開催し、毎回20～30名が参加しています。地域住民の交流の輪を広げたり、絆を深めたりすることを目的とし、様々なイベントや観菊会などを開催しています。

「お手伝い活動」は、賛助会員からの依頼に応じ、

活動会員が、買い物代行、送迎、ゴミ出しなどのお手伝いをする活動で、地域で互いに助け合える風土をつくっていきたいと考えています。



▲ 喫茶オアシスの様子

GVGの「声かけ・見守り訪問」

大津市南地域包括支援センターによると、この地域の住民の方々は、困りごとがあるときには、近隣の方や行政機関に相談するより、遠方でも親せきの方など身内に頼る方が多く、公的なサービスにつながりにくい状況があったとのこと。しかし、住民の高齢化が進む中、南郷グリーンハイツ自治会では、地域住民同士の見守りが必要ではないかと考えるようになりました。

そこで、平成26年4月に自治会から住民に対して「声かけ・見守り」をして欲しいか希望を聞いたところ、22名の希望者がいました。

しかし、自治会の役員は毎年交替することを原則としているため、自治会役員だけでは継続した活動に難点がありました。一方、GVGでは、それまで、4名の方を対象にご自宅に訪問しお話をする形で、「声かけ・見守り」活動を地道に続けていました。

そこで、自治会役員とGVGで検討を行い、自治会では、広報配付時に班長がインターフォン等で安否を確認する「声かけ・見守り」活動を担当し、GV

Gは経験を生かし、ご自宅を訪問しておしゃべりをする「声かけ・見守り」活動を担当することとしました。

平成27年度には、GVG独自で「声かけ・見守り」の希望を募り、9名を対象に「声かけ・見守り」活動を行うこととなりました。

GVGでは、これを契機に「見守り隊」の編成を行い、総員14名で「声かけ・見守り」活動を行うこととしました。

この「声かけ・見守り」活動の再出発に際し大津市社会福祉協議会や、大津市南地域包括支援センター、民生委員・児童委員と相談し、またGVG世話役会でも議論をかさね、活動行動指針の作成や勉強会の開催、地域包括支援センターや民生委員・児童委員などの相談機関とのネットワークづくりなどを行いました。

活動行動指針を作成する上で特に留意した点は、緊急時の対応です。「声かけ・見守り」利用者のお宅には必ず「命のボタン」を置いて頂き、見守り隊員は、万が一の事態に備えて緊急連絡先を持つことにしました。

活動は、利用者（多くはひとり暮らし高齢者）のお宅に2～3名がチームになって月に1～2回のペースで訪問し、世間話に花を咲かせます。

訪問先から様々な悩み事などを聞くこともあります。そのような時、担当者がひとりで抱え込まないことが大切です。月1回開く世話役会では、このような課題を個人情報に留意しながら議論し、内容によっては、各種相談機関に相談します。



▲ 定例会の様子

訪問するために必要な情報を共有しています。

自然なつながりを大切に

見守り訪問活動を始めたころは、気持ちが後ろ向きだった方も、訪問を重ねる中で、少しずつ前向きな姿になっていかれるのを実感することは大変嬉しいことです。また、人生の先輩として、利用者から学ぶ機会が多く、その度に尊敬の念を抱いています。

GVG代表の伊藤さんは「そもそもご近所さん同士なので、つながりを大切にしていきたいです」と話します。「声かけ・見守り」活動を通して、住民ならではのお互い様の関係が自然と作られています。

今後の課題

家族が見守り訪問が必要だと感じていても、本人には拒否されることもあり、活動の難しさを感じる場面もあります。また、本当は見守りが必要な人であってもなかなか見えてこないという課題もあります。

しかし、この活動を継続することにより、住民同士の見守りや助け合い活動が確実に広がっていきます。

GVGIは、南郷グリーンハイツ自治会の住民が安心して地域で暮らし続けることができるよう、これからも、無理なく、できる範囲で活動を続けていきます。

社協ワーカーより

GVGの取り組みは、見守りする側・される側の関係性ではなく、ご近所関係をベースにしたおしゃべりだからこそ、住民さん同士が自然な形でお付き合いをされています。

市社協としては、住民さんの意見を大切に、「こうしたらいい」の情報提供より、「みんなまで話し合ってみませんか」の声掛けをするように心がけました。「何かあったら社協がいる」と思ってもらえるように今後も関わっていきたいと思います。

(大津市社協 内田 大さん)

余呉地区 元気かい 『ちょこっとサービス』(長浜市)

～余呉地区全体に自然な助け合いが広がるように～



地域の概要

長浜市余呉地区は滋賀県の最北部に位置し、福井県との県境にあります。大半が山地で占められており、落葉広葉樹林が広域にあるなど、自然豊かな地域です。一方、冬期の降水量、降雪量は、県下で最も多い地域でもあります。

余呉地区全体の高齢化率は37.54%(平成27年11月時点)で、自治会によっては50%を超えるところもあります。

また、独居高齢者世帯は260世帯と、余呉地区全体の20%にのぼり、住民の高齢化が地域の課題となっています。

元気かい「ちょこっとサービス」の開始

平成24～25年に米原市が開催している「ルッチまちづくり大学」※でまちづくりを学んだ余呉地区の4名が、「これからの余呉に何が必要か」と話し合い、これから地区の高齢者の日常生活の支援活動が必要になるのではないかと考えました。

また、将来、自分たちが支援を受ける側になったときに、住民同士が助け合える地域になってほしいという想いもあり、平成25年5月にこの4名により「元気かい」を設立しました。

そして、地域のひとり暮らしの高齢者や障害のある方が生きがいを持って毎日を過ごせるようにと、ちょっとした日常生活支援『ちょこっとサービス』を開始しました。

「元気かい」の立ち上げには地域からの信頼は不可欠でした。そのため地区社会福祉協議会(以下、地区社協)に後援をお願いし、地区社協を通じて地区の各

種団体に対して「元気かい」の案内をしていただきました。

ほかに「移動コンビニカエル号」という移動販売車にチラシを置いてもらったり、住民の情報をよく知る民生委員・児童委員から利用対象者に紹介してもらったりと、多くの地域組織に協力をいただきました。



▲「ちょこっとサービス」のチラシ

「ちょこっとサービス」の内容

高齢者の日常生活を支援することを目的に開始した『ちょこっとサービス』は、気兼ねなく地域の方に利用してもらえるよう、有償でのサービスとしました。

【作業内容と料金】

作業内容	利用料
比較的重労働	1人1時間 1000円
比較的軽作業	1人30分 300円

※「ルッチまちづくり大学」とは米原市が主催する市民大学。市内外を問わず18歳以上で、まちづくりに関心・興味があり、継続して学習ができる人が「入学」できる。「自分学」と「まちづくり学」による「共通基礎科目」と「まちづくりコース」と「地元学コース」からなる「専門科目」を3年間で履修する。

電球交換や野菜の収穫、ゴミ出しなどは「比較的軽作業」として、作業人員一人あたり30分300円の利用料をいただきます。

また、庭の立ち木の枝切りや草刈り、畑の耕作、玄関の除雪作業などは「比較的重労働」として、作業人員一人あたり一時間1,000円(機械持込あり)の利用料をいただいています。



▲利用者宅で窓拭きを行う『元気かい』メンバー。枠のホコリまで丁寧に掃除します。

リピーター増加中!

「元気かい」の会員は退職された60歳代の地域住民が多く、現在17名の会員で活動しています。

「ちょこっとサービス」の利用件数は平成26年度は20件でしたが、平成27年度は2月時点で37件を超える利用がありました。

利用世帯は20世帯で、同じ世帯が複数回依頼されることが増えてきました。余呉地区は畑を所有している世帯が多いため、依頼内容も畑の耕作作業が多く寄せられます。

「ちょこっとサービス」を利用した方からは、「年齢を重ねるにつれて出来ないことが増え、困っていた。そんなときに『元気かい』のことを知りました。『元気かい』から作業に来てくれるメンバーは見知った顔の人が多いため、気兼ねなく利用することができます。真面目に一生懸命、丁寧に作業してくれて信頼しています」という感謝の声が寄せられています。



▲代表の谷口氏(写真右)と副代表の三段崎氏(写真左)

▲作業を終えて、休憩を取りながら、会員間で情報交換(世間話)

自然に助け合える地域を目指して

「ちょこっとサービス」は余呉地区の将来のために始めた活動で、当初の会員は4名だけでしたが、活動を通じて、たくさんの仲間が出来ました。

月に一度の定例会や、「ちょこっとサービス」の活動を通じて、顔も知らなかった方とも昔からの友達のように交流することができるようになりました。また、会員のかつての恩師のお宅からの依頼もあり、作業を終えて喜んでもらったことで、自分たちも活動の喜びを感じる事が出来ました。

会員募集は大々的には行っていませんが、口コミなどで徐々に会員が増えています。会員それぞれが自分の地域で助け合い活動を行い、余呉地区全体が自然な助け合いができるように、活動していきたいと考えています。

社協ワーカーより

「ちょこっとサービス」は高齢者等への生活支援を通して、活動を依頼された方の「生きがい」作りにも貢献されています。一部の作業ができなくなって諦めてしまったことも“ちょっと”の支援で継続できると喜びの声をいただいています。

(長浜市社協 細江 正直さん)

葉山東福祉の会(栗東市)

地域が“家族”になることを目指して
～地域の中で支え合う給食サービス～



葉山東学区の特徴

栗東市にある葉山地域は旧東海道が通る地域で、昭和40年代に造成された団地の居住者が多く、新旧住宅が混在した地域です。

葉山東小学校区の人口は7,174人で、世帯数は2,740世帯、高齢化率は23.36%です。(平成27年12月31日現在)

栗東市全体の高齢化率は約17%であるため、市の中では高齢化が進んでいる地域です。

“葉山東福祉の会” 設立のきっかけ

平成16年5月に、高齢化社会に向けて、地域における思いやりの奉仕、無理のないボランティア活動の必要性を感じ、葉山東地域振興協議会の福祉部会員と民生委員・児童委員で先進地研修を行い、民生委員・児童委員5名が発起人となって、「葉山東福祉の会」を設立しました。

当初は会員42名で、市内の老人福祉施設や作業所の手伝いや、地域のイベントへの参加協力といった活動を始めました。

その後、平成17年1月に栗東市社会福祉協議会より、高齢者の給食利用者増加による給食サービス事業の要請があり、設立準備委員会を経て、平成18年10月より、一人暮らし高齢者の見守りを兼ねた給食サービスをスタートしました。民生委員・児童委員が中心となって、地域の皆さんに福祉の会加入を呼びかけた結果、健康推進員や地域のボランティアの参加が年々増え、現在は100人を超える会員で活動をしています。

住民で協力し合う給食サービス

給食サービスは、利用登録されている学区内の16名の一人暮らし高齢者の方に対して、毎週水曜日に手作りのお弁当を届けます。

活動は、「調理班」、「配達班」に分かれて活動しています。

ボランティア登録時に「調理」「配達」の項目を設け、自分ができる内容にチェックを付けて活動に参加できるようにしています。

“何でもする”のではなく、“自分のできることをする”というスタイルなので、無理なく活動に参加することができます。

調理班は現在9班あり、毎週交代で調理をしています。1班5～6名で、同じ自治会ごとに班を構成しているので、顔見知り同士で気兼ねなく活動できます。

また、9班あることで各班の当番が回ってくるのが約2か月に1回のペースになり活動の負担も少なくなります。

配達班は、自治会単位に一人ずつ配置し、お弁当を配達しています。そして、翌日に弁当箱の回収を行っています。



▲栄養バランスのとれたボリューム満点の手作り弁当
1食350円



▲温かい汁物も一緒に配達します

このサービスは、“見守り”を兼ねているので、弁当の『手渡し』を大切にしており、弁当と一緒に、誕生日カードや、季節の折り紙、クリスマスにはケーキなどを配達することもあります。

活動を続けていると、弁当箱を回収する際に、弁当箱の中に、利用者からお礼の手紙が入っていることもあり、メンバーは、それを読むととても嬉しく、やりがいを感じます。

活動を通して仲間が出来ることや、自分自身が料理を教えてもらうこともでき、楽しくわいわいと活動しています。

これらのことが、退会者も少なく、長く続けられる秘訣になっているのかもしれませんが。

これからの課題と工夫

この活動は、年間100,000円の赤い羽根共同募金の助成金を受けていますが、弁当箱などの備品の用意や、調理の際の施設使用料の支出など、経費の部分で苦しい面があるので、材料費をいかに安くし、なおかつバランスのとれた弁当を作るため、日々工夫を重ねています。

魚の骨を取ることや、野菜などを食べやすい大きさに切るなど、利用者のために常に気を付けて調理しています。

また、会員の退会は少ないものの、高齢化が徐々に進んできています。活動を継続するためにも若い年代の住民にもっと参加してもらうことが必要です。

そのために、今後は広報で会員の募集をかけることや、他に周知する方法を考えることが必要になっています。



これからの葉山東学区での福祉活動

「葉山東福祉の会」では、この活動を今後も続けていかなければならないと考えています。

さらに、今の活動以外に高齢者の話し相手やデイサービスのお手伝いなど、活動を広げていきたいと考えています。

平成26年に「葉山東福祉の会」は10周年を迎えました。次は15周年、そして20周年を目標に、困った時に、「助けて」とすぐに言える、家族のように温かく、お互いを支え合うことができる地域づくりを目指して、今後も活動を続けていきます。



▲葉山東福祉会のメンバー。
左から代表の小林さん、副代表の松山さん・島田さん、給食サービス副会長の奥野さん

社協ワーカーより

社協として地域福祉の向上を考える上で、友愛訪問を兼ねた給食サービスを実施することで、地域の高齢者の把握、安否確認、見守り、ひとり暮らし高齢者の孤立の解消につながるのではないかと考えています。

また葉山東学区の住民、様々な団体の方々が共に活動することで、地域住民のつながりづくりとなり、災害などの緊急時の対応も円滑に行うことができるのではないかと考えています。

(栗東市社協 和田 紗也香さん)

三本柳区防災福祉会 (甲賀市)

～平常時にも活かせる防災組織づくりを～



地域の概要

甲賀市水口町貴生川には15の区があり、その中に三本柳区があります。

以前は商店があり、にぎやかな地域でしたが、現在は商店も少なくなり、人口は331名、106世帯で、高齢化率は37.4%と高齢化が進んできています。また、75歳以上の後期高齢者は全体の21%に上ります(H27年12月現在)。

この地域は、四方を川に囲まれているため、川が氾濫することもあり、住民の災害についての意識は高くなっています。

三本柳区防災福祉会設立のきっかけ

三本柳地区に防災組織は以前からありましたが、これまで実際の活動には至っていませんでした。

しかし、東日本大震災が起こり、「何かあってからの行動では遅い」、「組織を見直したい」と当時の区長の強い思いから、平成26年9月に「三本柳区防災福祉会」(以下、防災福祉会)が発足しました。

「好き寄り」で集まっても、継続することが難しいと考え、地域のなかの団体に声かけを行い、継続性のある組織を作りました。

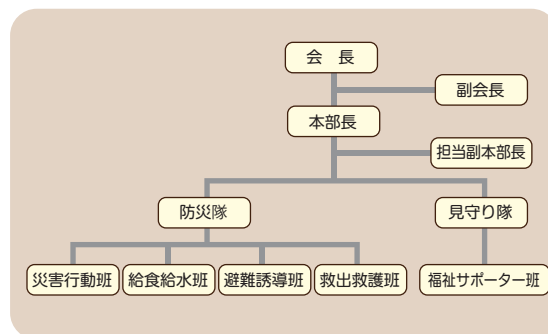
三本柳区防災福祉会の活動

防災福祉会は「防災隊」と「見守り隊」の大きく二つで構成されています。

「見守り隊」が設けられたのは、災害時のみでなく、平常時からの見守り体制が必要という意見が組織化会議内で出てきたからです。

■「防災隊」の活動

「防災隊」は「災害行動班」、「給食給水班」、「避難誘導班」、「救出救護班」の4つに分かれており、地域の各種団体の特色を活かしてそれぞれの班に所属しています。



▲ 防災福祉会の組織図

平成27年度は、水害を想定した防災訓練を実施しました。訓練にあたり、専門的な知識を得るために市の危機管理課や県の流域治水政策室に出前講座を依頼して学習を行ったところ、120名の参加がありました。

防災訓練前に行った災害時の避難に関するアンケートは地域住民の関心の高さを反映して、回収率は90%に上りました。

このアンケートを実施した際に、併せて災害時の避難支援の協力隊(お任せ隊)を募集したところ、10名の登録がありました。今後、協力隊の具体的な役割を検討し、活動を開始する予定です。



▲ 地域全体で協力し合い訓練に取り組みます

■「見守り隊」の活動

「見守り隊」は、民生委員・児童委員を中心に「福祉サポーター班」による見守り訪問活動を実施しています。

介護予防ミニサークル「いきいき会」(以下、「いきいき会」)やふれあいサロンの案内のために訪問し、さらに出欠の確認の際に訪問することで、見守りを重ねています。

※ 「いきいき会」は、平成21年11月に、介護予防を目的として発足した会で、75歳以上の独居や高齢者世帯の計22名を対象に毎月1回10時～14時まで三本柳公民館で開催されています。

会では、季節に合わせたイベントを行っています。子どもや近隣住民の方も参加し、様々な世代の方が交流するとともに、お互いの情報を共有する機会になっています。



▲ サロン活動で交流が深まります

これからのさらなる発展のために

防災福祉会の活動に対して、地域住民からは「ようしてるなあ」、「ずっと続けて欲しい」など、感謝と期待の声が上がっています。

一方、「いきいき会」に参加できない人への支援をどうするか、地域内の空き家の活用方策を考えると必要ではないか、災害時に二次災害を起ささないような避難のタイミングをどうするかなど、活動を続ければ続けるほど課題は出てきます。

こうしたことから、平成27年6月には「三本柳区を考える会」を開催し、防災福祉会の事業について考える場を設けています。そこに様々な年齢の方が参加し、活動を継続するための仕組みについて話し

合いを行っています。

どの活動も「自分自身のために」、「地域の助け合いが貴方を救う」という言葉を大切に、「地域力」を高めるための活動を続けています。

「自分たちの地域は自分たちの手で」という思いで、これからも活動を発展させていきます。



▲ 防災福祉会役員のみなさん

社協ワーカーより

平成25年11月に三本柳区長さんより防災の組織を見直したいという相談を受けました。

そこで、区長さんをはじめとした区の役員の方々と話し合い、見守りや声かけなどの災害時にも必要となる福祉の視点を取り入れた活動が組み込まれることになりました。

三本柳区防災福祉会は、見守りや声かけ等の取り組みを強化した災害にも強い地域づくりを目指した活動を着実に進められています。

「一歩一歩慌てずに」をモットーに、つながりを大切にした活動が継続されるよう支援していきたいと考えています。

(甲賀市社協 平子 幸子さん)

ぼ だ い じ
菩提寺まちづくり協議会
(湖南省市)



～認知症の人と家族が安心して暮らせるまちをめざして～

地域の概要

湖南省菩提寺学区は、菩提寺小学校と菩提寺北小学校の2つの小学校のある、市内でも1番大きな学区です。

人口は11,676人、4,431世帯、高齢化率は18.0%です(平成27年12月現在)。

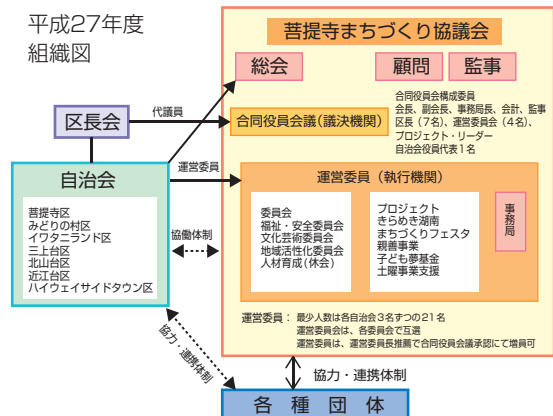
菩提寺学区には7つの自治会があり、各自治会の高齢化率は17.8%～26%で地域の状況が、それぞれ異なっています。

菩提寺まちづくり協議会について

各自治会で解決できない課題に対応していくため、平成20年6月に「菩提寺まちづくり協議会」(以下、まちづくり協議会)が設立されました。それまで、行政主導だったまちづくりを、「地域のことは地域で」をスローガンに、地域住民主導のまちづくり活動を行うことを目的としています。

まちづくり協議会の役員は、現在40名程度で、そのうち各自治会から選出された役員が22名です。

合同役員会を月1回開催し、各自治会の課題やまちづくり協議会の今後の方向性について話し合いを行っています。学区内の関係団体と協働しながら活動を進め、安心して暮らせるまちづくり活動を展開しています。



▲ 菩提寺まちづくり協議会 組織図

平成25年度には、「菩提寺まちづくり協議会5ヶ年計画」を策定し、この計画を基に、その時々地域の状況に応じた事業の組み立てを「福祉・安全委員会」、「文化芸術委員会」、「地域活性化委員会」の3つの委員会ごとに行い、活動を展開しています。

また、平成27年4月に「菩提寺まちづくりセンター」が開設され、まちづくり協議会が指定管理をうけています。地域住民が自由に利用でき、世代間交流の場にもなっています。



▲ 会長の山口さん

認知症高齢者発見保護訓練を実施

「福祉・安全委員会」では、認知症の方の行方不明等のニュースが増えていることを踏まえ、認知症のある人が帰宅できなくなった時を想定した訓練を平成27年度に実施しました。

訓練を実施するまでに、認知症についての勉強会を2回開催し、認知症への理解を深めるところから始めました。

訓練は、高齢者役・見守り役・捜索隊に分け、高齢者役・見守り役は、保健センター・市の高齢福祉課・キャラバンメイト・社協などの専門職が担当しました。

捜索隊は、各自治会において募集した住民が中心となり、警察や消防団と連携して、各ポイント(持ち場)



▲ 地域全体で協力し合い訓練に取り組みます

の見廻りや、高齢者役を発見した際には声かけ等を行いました。

事前に各自治会において捜索隊の連絡網を作成し、認知症の方の行方不明等の情報がメールで届くようにしました。

さらに、以前から活用しているタウンメールも合わせて活用することで、広く情報を周知し、早期発見につながるよう工夫しました。

訓練には、学区全体で150名の方が参加しました。中には、親子で捜索隊として参加している自治会もあり、子どもから高齢者まで、菩提寺学区全体で取り組むことができました。

訓練終了後には、各自治会における振り返りと、学区全体での振り返りの時間を設け、各自治会での様子を共有しました。

参加者からは、「認知症の方を地域で見守るという意識が高まった」「一緒に」という言葉に安心してもらえた」という意見があり、新たな気づきにつながる訓練になりました。



▲訓練終了後、自治会ごとで振り返りを行っています。

これからのまちづくりのために

今回、訓練を実施することで、認知症の人と家族が安心して暮らすために、近隣の理解と声かけ、見守りが大切であることを改めて学ぶことになりました。

まちづくり協議会では、今後も継続して、認知症を正しく理解するための勉強会や、さらに医療関係機関と連携も強化していく予定です。

まちづくり協議会では、子どもがまちづくり活動に参加するために、「防災キャンプ」や「まちづくりフェスタ」を開催しています。

10年先を見据え、様々な世代、各種関係機関と連携し、次世代へつないでいくための仕組みづくりに力をいれていきたいと考えています。



▲訓練にも親子で参加しています。

社協ワーカーより

菩提寺まちづくり協議会では、活動の対象が子どもから高齢者まで幅広く、今自分たちの地域には何が課題なのか、何が必要なのかを敏感に捉え、活動に繋げておられます。専門機関、自治会とも連携し、地域全体で活動されています。

今回、初めて認知症高齢者発見保護訓練を実施され、大人だけでなく、親子で訓練に参加されている地域もあり、高齢者の課題を子どもと一緒に考えていく地域づくりにつながっているのではないかと考えています。

社協では、「福祉・安全委員会」の定例会に出席し、活動の流れや準備を一緒に考えています。委員の方々は、地域のスペシャリストなので、活動や会議の中で常にアンテナを張り、情報をキャッチするようにしています。

まだまだ試行錯誤の段階ですが、「一緒に考える」という姿勢で会議や活動に参加しています。

(湖南市社協 井上 千紗登さん)

高番区絆千福の会(米原市)

～みんなでつくる、楽しい居場所～



地域の概要

米原市高番は伊吹山の南西、伊吹山から流れる弥高川の扇状地の末端に位置する、人口426人、143世帯で高齢化率30.28%の地域です(平成28年1月1日現在)。

地域の若年層の人口が減少しており、ますます進行する高齢化が深刻な課題となっています。

「絆千福」の誕生

「絆千福」は、自治会内に住んでいる方を対象に、誰でも参加できる「居場所づくり」を目指して、平成26年9月に活動が始まりました。

きっかけは、現在世話人を務める民生委員・児童委員の北川さんが伊吹民生委員児童委員協議会の高齢者福祉部会に参加する中で、高番の住民同士の間を深めるために、地域で交流の場をもつことが必要であると考えたことです。自分の思いを奥様に伝えたところ、奥様も賛同し、まずはご夫婦で活動することとしました。

自治会に対しては、その当時北川さんが自治会の評議員をしていたこともあり、自治会と活動の必要性や活動内容について協議を行い、自治会長の協力のもと、毎週1回住民が集まり、楽しくおしゃべりとゲームができる、遊べる居場所づくりを始めることになりました。

「絆を深めたい」という思いと、活動拠点となる「高番コミュニティーセンター千福会館」の「千福」から、その場の名称を「絆千福」としました。

そして、「絆千福だより」を発行し、参加を呼びかけました。

「絆千福」の活動内容

■自由に、思うままに過ごす

「絆千福」は毎週金曜日の9時から12時まで開か

れており、出入り自由です。

参加者の平均人数は18人程度で、千福会館にあるオセロ、トランプ、麻雀、将棋、ポケットボールなどの遊び道具を自由に使い、楽しみながら時間を過ごすことができます。

誰かがプログラムを提供するのではなく、参加者がみんな考えて、思うままに過ごす、そんな気楽な活動を大切にしています。

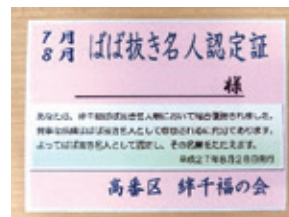
また、「カフェ絆千福」としてコーヒーとお菓子の詰合せを各100円で提供しています。



■ちょっとした工夫で「名人認定証」

参加者がゲームをした際には記録をつけます。勝っても負けても点数が入るようにしており、参加すればするほど、高得点になる仕組みになっています。

2ヶ月ごとに優勝者を決め、『名人認定証(写真参照)』と粗品を渡して、表彰しています。このようなちょっとした工夫が住民の方に継続して活動に参加してもらえる仕組みになっているのかもしれない。



みんなで作る「絆千福」

「絆千福」には、ボランティア（運営者）と参加者という線引きがありません。誰でも自由に参加することができ、自由に過ごすことができる場なので、運営も参加も負担を感じることなく一緒に楽しむことができます。

また、年に数回参加者同士で食事会のようなかたちでお出かけを企画しています。行き先は参加者からアンケートを取り、その意見をもとに決定しています。

参加者は「みんなと遊べるのが嬉しい」、「何かするのではなく、みんなでおしゃべりしているのが楽しい」、また、一緒にゲームをする仲間が待っているので、「次も行きたいなあ」という思いになります。

「絆千福」という場があることで、いつもは参加している方が参加していないと、自然にその方の様子が気になります。つまり、週1回の住民同士の安否確認の場となっているのです。

また、健康状態や暮らしの出来事を参加者同士が話すことで、心配ごとがあった場合には、一人で抱え込まず、互いに考え合えるような関係性ができます。「絆千福」という名に思いを込めたとおり、まさに住民同士の絆づくりにつながっているのです。

「絆千福」のこれから

現在、「絆千福」は地域の高齢者が参加していますが、高齢者以外の住民の参加の広がりや、自治会役員との連携をどう強めていくかといった点で検討すべき課題があります。

高番をより住みやすい地域にするために、「絆千福」ではこうした課題にも取り組みながら「みんなで作る、楽しい居場所」づくりを進めていきたいと思っています。



▲ 民生委員児童委員の北川さん



▲ 高番自治会長(平成27年度)の笹木さん

社協ワーカーより

北川さんから社協へ「自分たちで高番に住んでいる方の居場所をつくりたい」という相談があり、各地の居場所づくり活動に関する情報提供や、すでに開催されている居場所への視察などを行いながら、活動の立ち上げに向けて一緒に考え、取り組みを進めてきました。

北川さんは居場所について「子どものころのちゃんばらごっこのように、“この指とまれ”で集まり、来ている人みんなで楽しめばいい、みんなで後片付けもしたらいい。」と話されています。参加者のみなさんからも「できることは自分たちで」という声が聞かれており、参加したい人が自由に出入りでき、『する』『される』の関係ではなくみんなが対等で、みんなで運営していくという考え方のもと、取り組みを進められています。

現在では、地域の中のちょっとした困りごとへのお手伝いも考えたいという声もあがっています。今後は自治会との連携を深めながら、幅広い世代の参加を図ることと合わせ、こうした点についても一緒に考えながら、安心して暮らせるまちづくりをすすめていきたいと思っています。

(米原市社協 杉山 晃平さん)

小地域福祉活動事例集編集委員の声

今回、この取材活動を通じて感じたのは、活動者皆様の熱意です。すぐには成果でない地域福祉活動を継続されて来られたのは、やはり熱意あってこそと感じました。活動者の熱意を地域に伝えるお手伝いができるよう自分の仕事に動してみたいと思います。

(大津市社協 東 崇博)



「自分の地域は自分達で考える」「楽しんで活動を続けていきたい」取材先で話されていた言葉です。活動されている方の熱い思いのこもった話を直接聞くことで、地域力の大切さをあらためて感じ、市外の活動に触れる貴重な機会となりました。

(長浜市社協 本坊 美菜)



今回の取材を通して、県内の地域活動を直に学び、地域の方の“熱い思い”を感じる良い機会でした。メンバー間では、どの様にすれば見やすいものになるのか協議を重ねました。少しでも多くの人に見て頂ける事例集になると嬉しいです。この事例集作成にご協力いただいた方、メンバーの皆さんありがとうございます。

(湖南市社協 井上 千紗登)



今回編集委員会に参加し、取材の中で共通して感じたことは、無理せず、それぞれのできることで活動することが大切であるということでした。また、事例集を読んでいただき、新たな活動を始めるきっかけや、継続の工夫につなげていただけたらと思います。

(栗東市社協 和田 紗也香)



取材のなかで、活動者の熱い思いをお聞きすることができました。また、活動を行う上で関係機関との連携が大切であることを改めて感じました。今回の取材を通じて、県内に新たなつながりができたことを嬉しく思います。

(米原市社協 福田 麻友)



事例集の作成において、今回3つの地域へ取材に行かせていただきました。地域の背景がそれぞれ異なる場所だったので、立ち上げから経過、活動内容が多様で大変勉強になりました。ただ、活動内容は異なっても共通している部分があり、それは、みなさんがイキイキとされていたこと、仕事としてではなく楽しみの部分も見つけておられるところでした。地域活動は続けていくことが大切であり難しいところだと思いますが、今回の取材を通して“仲間と一緒に楽しみながら活動する”ということが活動を続ける上で重要であるということ学びました。

(甲賀市社協 樹神 有加)



～編集委員会の軌跡～

9月24日(木)

第1回編集委員会
メンバーみんなで、“小地域福祉活動”のイメージを共有!

10月26日(月)

第2回編集委員会
取材先候補をメンバーの所属社協から持ち寄り、取材先を決定★

取材



12月21日(月)

第4回編集委員会
残りの3事例について、活動のポイントを共有。

11月30日(月)

第3回編集委員会
取材の終わった3事例について、質問をしいながら活動のポイントを共有。

原稿作成



「小地域福祉活動事例集Vol.10」完成!!

おわりに

(京都ノートルダム女子大学 准教授 酒井 久美子さん



小地域福祉活動で大切なこと

今回取り上げた 6つの地域の事例を通して、小地域福祉活動を実践するにあたって大切なことを考えてみたいと思います。

<地域や活動に対する熱い思い>

活動のきっかけは、各地で起きる大震災、ルッチ大学の講座受講、市からの要請などさまざまですが、大切なことは「何かあってからでは遅い」「安心して暮らすためには地域が助け合う土壌づくりが必要」「高齢者の日常生活支援が必要」「絆を深めるためには」「地域のことは地域で」など、活動者自身が暮らしている地域に対する不安やニーズに気づき、それらを解決するためにどうすればよいかと考える「熱い思い」があることだと思います。どのようなきっかけがあろうと、こうした「熱い思い」がなければ、活動は立ち上がらないでしょうし、継続することも難しいでしょう。小地域福祉活動の推進は、地域の方々のこうした「熱い思い」が不可欠で、その結集で大きな力になっていくものだと思います。

<地域に応じた活動>

そして、どの地域もその地域の現状を見据え、何が必要かを考え、ときにはアンケートを実施するなどその地域の実情に応じた活動を意識しておられるのがよくわかります。各地で有意義な活動が繰り広げられていますが、それをそのまま真似たところで、あるいは活動者の思いだけで実践してもそれは独り善がりの活動でしかなく、地域に根差した活動の展開には及ばないでしょう。それぞれの地域の強み、弱みを見極め活動を展開していくことが重要です。

<無理のない活動>

しかし、それだけでも活動は長続きしません。スタッフの特技を活かしたり、活動の不安を相談できるネットワークを作ったり、自分ができる活動に参加したり、参加者みんなで気軽に自由な活動を考えたりと、誰もが無理なく、できることをできる範囲で取り組む

工夫がされています。このように日常生活の延長線上でできる活動やみんな楽しく取り組める活動が長続きの秘訣だと思います。このような活動を進めていくことで、一人ひとりの生きがいややりがいにもつながり、地域の方々同士の輪の広がりにもつながっていきます。

また、活動上で必要な情報をお互いに持ち寄り、活動を考えるなど、「情報共有の場」や活動者も参加者もさまざまな人たちが集まる「交流の場」を創り出す工夫も大切なポイントだと思います。

<市町社協との関係>

さらに、このような住民主体の活動を後押しする市町社協の存在も大切です。住民主体とはいえ、住民のみなさんだけは不安や戸惑いもあるでしょう。そうしたときに、専門的な視点で助言すると同時に、「ともに」考え取り組みを進めていくというスタンスが大切な姿勢だと思います。住民のみなさんと社協やさまざまな組織等との連携・協働で活動を進めていくことが小地域福祉活動には必要なことでしょう。

最後に、今回は若手職員の方々による編集委員会を発足させ、各社協から地域活動を紹介し、意見交換などおこないながら、どの事例を紹介するかを考え、チームで取材に取り組み、取材報告、原稿の作成までおこないました。通常業務で多忙ななか、定期的に会議を開き、取材先との日程を調整するなど、過密スケジュールにもかかわらず、会議では熱心に議論し、よりよい事例集に仕上げるために検討してきました。編集委員会としての活動だけではなく、他地域の活動を見聞きするなかで、いろいろな可能性を感じられ、今後の地域支援に対する思いを新たにされたことと思います。このように滋賀県内各地で取り組まれている活動が広がり、県内の地域福祉の底上げにつながることを期待しています。

資料：小地域福祉活動事例集 掲載事例一覧(VOL.0～10)

Vol.0 (平成17年3月発行)

NO.	市 町	事 例
1	大津市	若葉町自治会「福祉をすすめる会」
2	野洲市	近江富士団地「ひまわり会」
3	日野町	西大路2区福祉会フレンド
4	竜王町	弓削地区福祉委員会

Vol.1 (平成19年3月発行)

5	大津市	衣川台オアシス
6	彦根市	城西学区社会福祉協議会
7	長浜市	虎姫町唐国福祉推進委員会
8	守山市	中野自治会デイサロン
9	栗東市	赤坂福祉会
10	東近江市	中野地区給食ボランティア

Vol.2 (平成20年3月発行)

11	大津市	さくら福祉の会
12	近江八幡市	安土町四ノ坪「よろずの会」
13	草津市	笠縫東学区社会福祉協議会
14	高島市	安曇川町「おしゃべり会」
15	米原市	寺倉福祉会
16	甲良町	住民ふくし会・ラポール金屋

Vol.3 (平成21年3月発行)

17	長浜市	南郷里地区社協と在宅ケアを支える会
18	長浜市	西浅井町「山門あじさいサロン」
19	草津市	渋川学区社会福祉協議会
20	東近江市	桜ヶ丘自治会「福祉員会」

Vol.4 (平成22年3月発行)

21	大津市	山中比叡平学区社会福祉協議会
22	長浜市	高月町西野福祉委員会
23	草津市	草津学区社会福祉協議会
24	甲賀市	土山町あずま自主防災会
25	日野町	清田福祉会
26	多賀町	栗栖地区福祉会

Vol.5 (平成23年3月発行)

27	長浜市	新庄中町自主防災組織
28	守山市	河西学区社会福祉協議会
29	甲賀市	寺庄区健康福祉会
30	湖南市	北山台区
31	愛荘町	長野西区
32	豊郷町	吉田区福祉連絡会

Vol.6 (平成24年3月発行)

33	彦根市	佐和山学区社会福祉協議会
34	近江八幡市	安土町十七自治会
35	野洲市	三上学区七間場自治区「愛慈彩の会」
36	東近江市	永源寺地区生活支援サポーター「絆」
37	米原市	野一色区「のいしきサロン あいあい元気」
38	竜王町	川守地区(要援護者支援システム)

Vol.7 (平成25年3月発行)

39	大津市	平野学区社会福祉協議会
40	栗東市	治田学区新屋敷自治会
41	湖南市	石部中央区
42	高島市	今津地区ボランティアセンター
43	甲良町	尼子福祉委員会
44	多賀町	多賀福祉会「お話しサロン」

Vol.8 (平成26年3月発行)

45	彦根市	稲枝地区社会福祉協議会
46	長浜市	虎姫福祉の会
47	近江八幡市	安土町常楽寺東横町見守り支え合い隊
48	野洲市	特定非営利活動法人篠原シニアネット
49	日野町	鎌掛地区社会福祉協議会
50	愛荘町	東円堂福祉ボランティアまどか

Vol.9 (平成27年3月発行)

51	大津市	藤尾学区社会福祉協議会
52	守山市	播磨田町自治会福祉活動部会
53	甲賀市	信楽地域見守りネットワーク活動推進委員会
54	東近江市	ちょこっとサポートみその
55	多賀町	水谷地区
56	米原市	ほほえみカフェ※
57	日野町	大字村井福祉会※

※福祉しが掲載記事より

Vol.10 (平成28年3月発行)

58	大津市	グリーンボランティアグループ
59	長浜市	余呉地区元気かい「ちょこっとサービス」
60	栗東市	葉山東福祉の会
61	甲賀市	三本柳区防災福祉委員会
62	湖南市	菩提寺まちづくり協議会
63	米原市	高番区絆千福の会